

平成 27 年度第 2 回まちづくり井戸端座談会 結果概要

日 時：平成 27 年 10 月 30 日（金）19：00 ～ 20：45

場 所：野洲市役所本館 3 階 第 1 委員会

<参加者> 市民参加者 6 名 山仲市長、遠藤政策調整部長、樋口健康福祉部政策監、川端総務部長 瀬川政策調整部次長、テーマ所管課、企画調整課（事務局）

<目的> 直近四半期の市政運営や議会で話題になった市民に関心の高いトピックスを集約して最新の状況を報告し、市民の皆さんと気軽に雑談的な雰囲気の中で意見交換をしようとするもの。

テーマ 1：（仮称）野洲市立病院整備について

【参加者からの主な意見】

- 86 億の投資をし、今後の世代への負担はないか。
- 現状の経営状態と新病院にした場合を比較したわかりやすい表がほしい。
- 耐震化の工事を行うことはできないのか。
- 現在の経営状態が悪いのは、経営者の責任であって、経営者を変えればよいのでは。
- 現在の数値などのデータはホームページで公表されているか。
- 駅前への病院移転は、一部で根強い反対論があると聞く。
- 総事業費の数字がよく変わる。どれを信じればいいのかわからない。
- 病床を増やして、看護師などへの負担はないか。

【市の回答】

- 耐震化を行うのであれば野洲病院が行うべきであり、市はできない。野洲病院内で検討してそれができないという判断がでた。それも踏まえて市へ投げかけてきたが、野洲病院側が提案した構想は、公での専門家による検討によって不可とされた。そもそも野洲病院の申し出は、新しい土地に新しい病院を建て、新しい機器を導入する過程を市の負担で行うのであれば、病院側が経営を引き受けるというものである。
- 耐震化の工事をするためには、その期間病院を閉鎖する必要があるため、経営がさらに悪化する。また耐震化を進めても、老朽建物の耐用年数が伸びるわけではない。
- 現状は経営者だけの問題ではない。建物や医療機器などの装備も問題である。
- 新病院は新しい機器の導入も行う。職員も野洲病院の職員をそのまま雇うのではなく、意欲と能力がある人を選び、きちんと試験を行って採用する。
- 最新の数値などのデータは、現在（H27. 10/30 時点）公表に向けて準備中である。
- 病床の増加は看護師への負担も考慮している。

テーマ2：児童虐待の防止について

- 健康推進課はどのように虐待を把握しているか。
- ネグレクトはどのように把握しているか。
- 最初からいじめようとしている訳ではない。環境面の影響が大きい。
- 健康推進課は検診などで、把握を行っている。
- ネグレクトは検診において、健康状態を確認するなかで発覚する。

テーマ3：債権の管理体制及び手法の整備について

- マイナンバー制度が銀行預金などと連動された場合、預金情報をもとに生活困窮者の情報などを把握したりするのか。
- 今の状況では債権管理に、マイナンバーによって連動された預金情報がどう使われるかは、明確に示されていない。

《その他の参加者からの意見》

- 図書館にあるビオトープについて、ヨシや葦などの雑草が繁茂している。ボランティアなどで除草を行っているが、ほとんど雑木林に近い状態である。なんとかメンテナンスが出来るように補助できないか。
- 草刈りなど維持活動には感謝している。予算面も意見を踏まえて考える。
- 市でマイナンバー制度の説明会を行ってもらえない。
- 国の制度であるため、市として責任をもって説明できない。
- カードを受け取らないことでデメリットはあるか。
- 手続きによる簡便性においてデメリットはありと考えられる。
- 市営住宅を居住者に売却する可能性はあるか。
- 売却の予定はない。公営住宅は売却するという想定はされていない。

井戸端座談会に対する感想

- 一般市民の参加が少ない。もっと沢山の人が参加できるようにPRが必要。
- テーマ別に詳細な説明があったが、参加者が理解できるよう焦点を絞ってほしい。
- 今回初めて参加して、非常に有意義であったので、他の人にも紹介してほしい。
- 行政と議会の関係。特に病院関係がわかりにくい。
- 少人数で詳細なお話しが聞けてよかった。
- 初めて参加した。駅前開発の全体案をもっと見たい。
- 現病院の処分方法は、地域包括の民間活用はされないのか。
- 学校の荒廃が進んでいるように思う。先生方が力を出しやすい教育現場にスピードをもって取り組んでほしい。
- 市長の忌憚のないご意見が聞かれ、病院開設に向けて経緯がよくわかった。
- 市長と直接議論できる機会であったので良かった。
- 説明資料は配布されると理解しやすいと思う。